

## No.94

# 「小学生時代の思い出の味」調査 思い出の食事は、「家族」みんなで食べた「寿司」！ 思い出の食卓には、やはり家族の姿が

### 《トピックス》

#### <思い出の食事シーン>

- 小学生時代の“思い出のメニュー”トップは、「寿司」(31.9%)
- “思い出の食事シーン”に欠かせないのは、「家族」の姿(96.9%)

#### <給食の思い出>

- 50代以上が、「脱脂粉乳」に強烈な思い出

#### <「おふくろの味」とその作り手>

- 「おふくろの味」は十人十色！ 意外に少ない「肉じゃが」

#### <「ごちそう」いま昔>

- 今も昔も変わらぬ「ごちそう」は、「にぎり寿司」！
- 多様化する「ごちそう」の定義。「家族だんらん」が見直される傾向に

★小学生時代の「思い出の食事シーン」～フリーアンサーから～★

★情報あらかると ～「私の思い出の味」 泉麻人氏 インタビューより～★

2008年8月

## 調 査 概 要

子どもの頃に食べた思い出の味、懐かしい食事風景…食べ物に関する思い出は、だれの胸にも秘められているものです。その思い出には、世代による違いがあるのでしょうか。また、時代を超えて変わらない「思い出の味」や「おふくろの味」はあるのでしょうか。

ミツカンは、20代から60代までの男女を対象に、小学生時代の「思い出の味」についてアンケートを実施しました。戦後から昭和60年代までに小学生時代を過ごした大人たち。彼らの「思い出の味」から、日本における食の変遷をご紹介します。

- ◆ 調 査 名：思い出の味に関する調査
- ◆ 調 査 方 法：FAXによるアンケート調査
- ◆ 調 査 時 期：2008年7月11日（金）～7月16日（水）
- ◆ 調 査 対 象：首都圏、関西圏に居住する20代～60代の男女  
〔小学生時代の居住地（首都圏、関西圏、その他の地域）により割付〕
- ◆ 有効回収数：357票（79.3%）

	20代 男性	20代 女性	30代 男性	30代 女性	40代 男性	40代 女性	50代 男性	50代 女性	60代 男性	60代 女性	合計
首都圏	15 (15)	15 (11)	23 (15)	21 (18)	22 (14)	21 (13)	17 (8)	22 (15)	19 (7)	24 (10)	199 (126)
関西圏	16 (13)	19 (14)	14 (13)	14 (11)	10 (11)	16 (14)	17 (16)	16 (10)	18 (13)	18 (13)	158 (128)
その他	0 (3)	0 (9)	0 (9)	0 (6)	0 (7)	0 (10)	0 (10)	0 (13)	0 (17)	0 (19)	0 (103)
合計	31	34	37	35	32	37	34	38	37	42	357

※（ ）内は小学生時代に居住していた人数

## 調査結果のポイント

- ◆ 小学生時代の思い出のメニューは、20代から50代まで「寿司」がトップ。世代を問わず思い出深いメニューのようだ。特に、回転寿司世代といえる20代では、4割が「寿司」にまつわる思い出をもっている。
- ◆ 思い出の食事シーンは、「自宅」(72.8%)で、「家族」(96.9%)と一っしょ。
- ◆ 思い出の給食メニューでは、戦後の食事情と学校給食の変遷が浮き彫りとなる結果に。特に50代以上は、「脱脂粉乳」に特別な思いをもっている様子だ。
- ◆ 小学生の頃の「おふくろの味」は、「ちらし寿司」がトップながら、上位のポイント差はわずか。「おふくろの味」の代名詞「肉じゃが」をあげる声意外に少ないことから、「おふくろの味」は人それぞれだといえる。
- ◆ そんな「おふくろの味」は、今も「母親に作ってもらう」人が過半数に達しており、既婚者でも半数近くが母親頼み。今も「母親」が、または「自分や家族」が手作りするという答えが8割に及んだ。
- ◆ 小学生の頃と現在、それぞれのごちそうメニューを比較すると、「にぎり寿司」は今も昔も変わらず「ごちそう」だが、「すき焼き」は大人になるとランクダウンしている。
- ◆ 小学生時代の「ごちそう」は、単に「ごちそうだと感じる料理を食べること」「外食をすること」だったが、現在では「厳選素材を使った料理」や「有名店・高級店での食事」にシフト。「ごちそう」の定義も多様化している。また、大人も子どもも忙しいこの時代に、「家族そろった」食卓の大切さも再認識されつつあるようだ。

## ◆思い出の食事シーン◆

### ●小学生時代の“思い出のメニュー”トップは、「寿司」(31.9%)

思い出に残っているメニューを27項目から選んでもらった結果、20代から50代までの各世代において「寿司」がトップにあがりました。お店で食べたお寿司か、出前か…いずれにせよ、子どもにとってお寿司は、いつの時代においても思い出深い、インパクトあるメニューのよう。フリーアンサー(※次ページ参照)では、「誕生日に家族で食べた手巻き寿司」など、手作りお寿司を家族で囲んだ思い出も数多く寄せられました。さらに、回転寿司世代といえる20代では、4割がお寿司にまつわる思い出をもっています。

世代別にみると、50代・60代では、戦後になって一般家庭でよく作られるようになった「カレーライス」、歌謡曲の洋題にも用いられた「すき焼き」、40代以上では、デパートの人気メニューだった「お子さまランチ」、20代・30代では、家庭でも手軽に楽しめるようになった「焼肉」が上位にあがりました。子どもたちの思い出となるメニューは、その時代の人気メニューでもあるようです。

■思い出の食事シーン【メニュー】ベスト5 (3つまで選択)(%)

	全体 N=357	20代 N=65	30代 N=72	40代 N=69	50代 N=72	60代 N=79
1	寿司 31.9	寿司 40.0	寿司 25.0	寿司 34.8	寿司 38.9	カレーライス 34.2
2	カレーライス 21.8	焼肉 27.7	焼肉 19.4	お子さまランチ 18.8	カレーライス 27.8	すき焼き 26.6
3	すき焼き 17.6	バーベキュー 21.5	カレーライス 13.9	そうめん 14.5	すき焼き 23.6	寿司 22.8
4	お子さまランチ 14.6		お好み焼き 9.7		お子さまランチ 20.8	そば・うどん 21.5
5	焼肉 13.2	カレーライス ラーメン すき焼き 13.8	お子さまランチ バーベキュー ステーキ ハンバーグ すき焼き 9.7	ラーメン すき焼き 13.0	そば・うどん 15.3	お子さまランチ 17.7

※選択肢: 寿司、お好み焼き、焼きそば、そば・うどん、そうめん、焼肉、焼魚、刺身、お子さまランチ、バーベキュー、カレーライス、ハヤシライス、オムライス、スパゲッティ、ピザ、ハンバーガー、サンドイッチ、から揚げ、コロッケ、ステーキ、ハンバーグ、ラーメン、餃子、おでん、すき焼き、しゃぶしゃぶ、鍋+その他(具体的に記入)+覚えていない

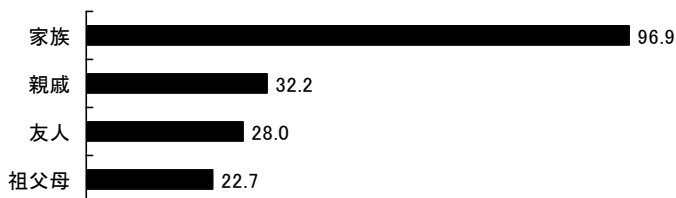
### ●“思い出の食事シーン”に欠かせないのは、「家族」の姿(96.9%)

思い出をともにした人は、「家族」という答えがほとんど(96.9%)でした。思い出に残る食事シーンは、家族とともに作られるというわけです。

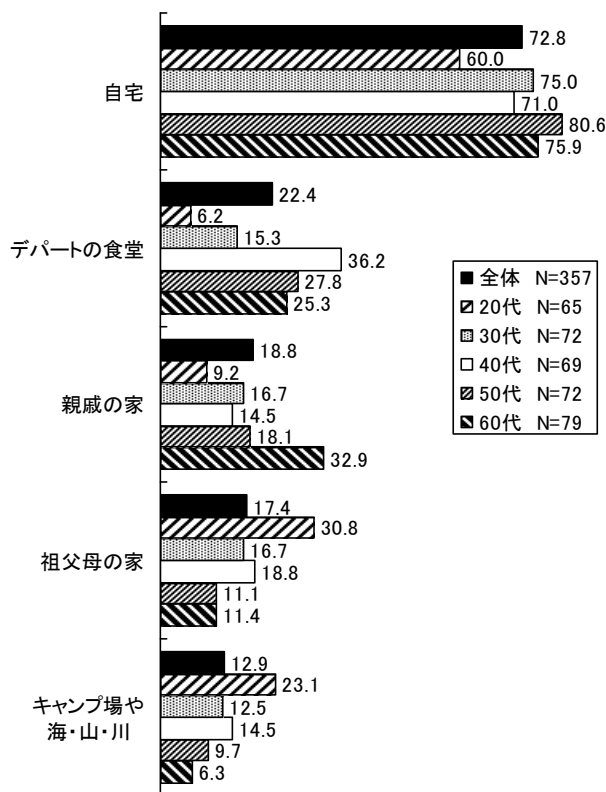
思い出の舞台となった場所は、「自宅」が最も多く、7割以上。世代別にみると、60代では、親戚同士が集まることが多かった時代を反映してか「親戚の家」が、40代では、「お子さまランチ」が人気となった「デパートの食堂」が多くあげられました。

20代では、「自宅」がやや少なく(60.0%)、その分、「祖父母の家」「キャンプ場や海・山・川」という答えが多くなっているのが特徴。「祖父母の家」には、1970年代以降、高齢者の単独世帯が増加したことが関連しているといえそうです。また、「キャンプ場」については、“思い出のメニュー”で「バーベキュー」が3位にあがっていることから、1980年代以降のアウトドアブームによる影響があるのかもしれませんが。

■思い出の食事シーン【だれと】 N=357(%)  
(3つまで選択、MA/6項目+その他+覚えていない)



■思い出の食事シーン【どこで】 N=357(%)  
(3つまで選択/25項目+その他+覚えていない)



## ★★★小学生時代の「思い出の食事シーン」★★★

### ～フリーアンサーから～

回答率 98%、ほぼ全員が思い出を綴<sup>つづ</sup>ってくれました。そのなかのいくつかをご紹介します。

#### 【母の手作り】…お母さんはいつも大好きな料理を作ってくれます。

- 肉屋さんで母が「豚こま 300 g」と注文すると、今夜はライスカレーだ！とドキドキした。(60代・男性)
- ひな祭りパーティで、母が作ってくれたひな人形寿司を友人と一緒に食べた。(40代・女性)
- 野菜たっぷりのオムライス。トマトケチャップで、花や小鳥を描いてくれた。(50代・女性)
- 食べたいものを聞かれるたびに、答えはいつも「親子丼」。「また～？」と言いながらも必ず作ってくれた。(20代・女性)

#### 【父の思い出】…いつもと違う食事シーンではお父さんの存在が光ります。

- 銭湯の帰り、父が相撲を見ようと言い出し、みんなでテレビのあるうどん屋へ行った。(60代・男性)
- ちゃぶ台で、家族そろって食べたすき焼き。醤油や砂糖で味付けをしていた父の姿が思い出に残っている。(60代・男性)
- 夏休みに家族で行ったキャンプで、父は飯ごうでご飯を炊き、自分はトウモロコシやウインナーを串に刺して焼き、食べた。(50代・女性)
- 兄弟が多いなか、父と二人だけでファストフードに。ゆっくりと笑いながら食べたことを思い出す。(30代・女性)

#### 【初めての外食】…子どもにとって外食は胸躍る体験です。

- 初めての洋食屋さん。外食はラーメンしか知らなかったので、ラーメンを注文し、みんなに笑われた。(60代・女性)
- 休日に家族とデパートの屋上で遊んだあと、食堂でホットケーキを。ナイフとフォークを使うのが大変だった。(40代・女性)
- めったに外食をしない家族。ファミレスで全員、メニューを熟読してしまった。(30代・女性)
- 家族と初めて行ったカウンター寿司屋で、ねぎとろ巻に感動。ひたすら注文し続けた。(20代・男性)

#### 【みんなでお寿司】…出前のお寿司も、手作りも、思い出のカギは「家族」のようです。

- 誕生日には、いつもテーブルに手巻き寿司の用意が。家族みんなで、楽しく食べた。(20代・女性)
- 祖母が作ってくれた少し甘めのちらし寿司を、みんなでおいしいねと言いながら食べた。(20代・女性)
- お祝い事があるときだけ、出前を取れた。家族みんなで食べるお寿司がごちそうだった。(40代・男性)
- 隣町の祭の日、親戚の家に集まって箱寿司を食べ、夜店に行った。(60代・男性)

#### 【その他】…思い出の食事に、ほろ苦い味はつきものなのかもしれません。

- 子どもの頃、高級食材だったバナナ。1本を家族4人で分けて食べたのを思い出す。(50代・男性)
- 我が家では作られることのなかったカレーライス。親戚の家で初めてごちそうになり、「こんな食べ物があるのか！」とショックを受けた。(50代・女性)
- 親が共働きで家庭の味に飢えていた。友人の家でいただいたチャーハンが、今も思い出に残っている。(30代・男性)

## ◆給食の思い出◆

### ●50代以上が、「脱脂粉乳」に強烈な思い出

小学生時代の食の思い出を語るのに欠かせないのが給食です。27項目から思い出に残っているメニューを選んでもらったところ、50代以上では「脱脂粉乳」、40代では「鯨の竜田揚げ」、30代では「揚げパン」、20代では「冷凍みかん」がトップに。戦後の食事情と学校給食の変遷が浮き彫りとなる結果になりました。

なかでも、60代で7割以上、50代で過半数の人が選んだ「脱脂粉乳」は、食糧難の時代に学校給食の栄養面を支えた献立。その独特な味や匂いとともに、今でも忘れることのできないメニューのようです。さらに、昭和45年からの捕鯨制限にともない献立から消えていった「鯨の竜田揚げ」など、懐かしのメニューが上位にあがりました。

そんななか、30代をはじめ、全世代でベスト5にランクされているのが「揚げパン」です。昭和40年代まで主食がパンのみであった学校給食において、「コッペパン」を何とか残さず食べてほしい」との思いから生まれたというこのメニュー。まさに昭和の給食を代表する人気の献立といえそうです。

■思い出の給食メニュー ベスト5 (%) (3つまで選択)

	全体 N=357	20代 N=65	30代 N=72	40代 N=69	50代 N=72	60代 N=79
1 鯨の竜田揚げ	33.6	冷凍みかん 36.9	揚げパン 48.6	鯨の竜田揚げ 42.0	脱脂粉乳 58.3	脱脂粉乳 73.4
2 脱脂粉乳	30.0	揚げパン 27.7	ソフトめん 34.7	揚げパン 37.7	鯨の竜田揚げ 51.4	コッペパン 62.0
3 コッペパン	29.7	ソフトめん 24.6	鯨の竜田揚げ 31.9	びん牛乳 30.4	コッペパン 37.5	鯨の竜田揚げ 38.0
4 揚げパン	28.6	ちくわの磯辺焼き 23.1	冷凍みかん	ソフトめん 24.6	揚げパン 20.8	すいとん 16.5
5 冷凍みかん	19.3	三角牛乳 20.0	びん牛乳 26.4	カレーシチュー	三角牛乳 18.1	三角牛乳揚げパン 10.1

※選択肢: 脱脂粉乳、びん牛乳、三角牛乳、ミルメーク、コッペパン、揚げパン、わかめご飯、グリーンピースご飯、ソフトめん、ナポリタン、焼きそば、カレーシチュー、クリームシチュー、ポルシチ、すいとん、鯨の竜田揚げ、酢豚、ちくわの磯辺焼き、スコッチエッグ、春雨サラダ、ヨーグルトあえ、冷凍みかん、フルーツポンチ、ひし餅ゼリー、ピーナツクリーム、プロセスチーズ、アーモンド小魚+その他(具体的に記入)+給食を食べたことがない

## ◆「おふくろの味」とその作り手◆

### ●「おふくろの味」は十人十色！ 意外に少ない「肉じゃが」

小学生の頃の「おふくろの味」を25項目から選んでもらったところ、「おふくろの味」の代名詞である「肉じゃが」は5位。一方で、「ちらし寿司」「カレーライス」「炊き込みご飯」などの“ご飯もの”が上位にあがりました。ただし、トップ5にランクインしたメニューのポイント差はわずかで、「おふくろの味」は人それぞれであることが分かります。「おふくろの味」とはまさに、それぞれの母親の味なのでしょう。

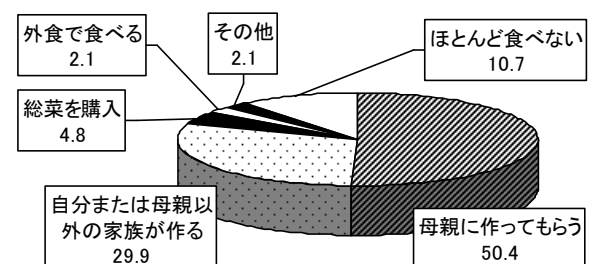
■小学生の頃の「おふくろの味」年代別 (%) (SA)

	全体 N=357	20代 N=65	30代 N=72	40代 N=69	50代 N=72	60代 N=79
1 ちらし寿司	12.3	卵焼き 12.3	カレーライス 15.3	ちらし寿司 10.1	ちらし寿司 13.9	ちらし寿司 25.3
2 カレーライス	9.8	ハンバーグ 10.8	炊き込みご飯 6.9	炊き込みご飯 7.2	炊き込みご飯 5.6	炊き込みご飯 16.5
3 炊き込みご飯	9.0	カレーライス 9.2	ちらし寿司 5.6	カレーライス 7.2	カレーライス 5.6	カレーライス 11.4
4 卵焼き	6.2	から揚げ	ハンバーグ	コロッケ	肉じゃが	肉じゃが 7.6
5 肉じゃが	5.6	炊き込みご飯 7.7	肉じゃが	みそ汁	卵焼き	卵焼き 6.3

※選択肢: 炊き込みご飯、ちらし寿司、手巻き寿司、カレーライス、チャーハン、そば・うどん、スパゲッティ、ラーメン、すき焼き、シチュー、ハンバーグ、グラタン、肉じゃが、から揚げ、コロッケ、ポテトサラダ、餃子、さばの味噌煮、卵焼き、茶碗蒸し、かぼちゃの煮つけ、きんぴらごぼう、おでん、みそ汁、漬物+その他(具体的に記入)+特になし

さらに、そのメニューを現在はどうのように食べているか尋ねたところ、今も「母親に作ってもらう」人が過半数に達しており、未婚者で約7割(68.4%, N=54)、既婚者でも実に半数近く(44.9%, N=115)が、母親頼み。「外食」や「総菜を購入」して食べる人は意外に少なく(6.9%)、今も「母親」が、または「自分や家族」が作るという答えが8割に及びました。人それぞれに異なる「おふくろの味」ですが、それを口にする手段は“手作り”という人がほとんどのようです。

■現在「おふくろの味」を食べる手段 N=335 (%) (SA)



## ◆「ごちそう」いま昔◆

### ●今も昔も変わらぬ「ごちそう」は、「にぎり寿司」!

小学生の頃にごちそうだと感じていたメニューを 30 項目から選んでもらったところ、「すき焼き」「にぎり寿司」「ステーキ」が、ほぼ全世代でベスト 5 に。小学生時代の 3 大ごちそうメニューに選ばれる結果となりました。また、全体で 4 位の「おせち料理」は、40 代以上の 3 世代でランクイン。世代を追うごとにポイントを伸ばしており、昭和 40 年代以前に生まれた子どもにとっては、お祝い事などで食べる料理が「ごちそう」であったことがうかがえます。一方で、全体で 5 位の「焼肉」は、20 代・30 代が子どもの頃に台頭した「ごちそう」だといえるかもしれません。

	全体 N=357	20代 N=65	30代 N=72	40代 N=69	50代 N=72	60代 N=79
1 すき焼き	38.9	ステーキ 38.5	すき焼き 38.9	にぎり寿司 47.8	にぎり寿司 45.8	すき焼き 60.8
2 にぎり寿司	37.3	焼肉 36.9	にぎり寿司 36.1	ステーキ 29.0	すき焼き 40.3	おせち料理 48.1
3 ステーキ	25.8	にぎり寿司 35.4	焼肉 30.6	すき焼き 26.1	おせち料理 23.6	赤飯 32.9
4 おせち料理	23.2	すき焼き 24.6	ステーキ 26.4	おせち料理 15.9	ステーキ 22.2	にぎり寿司 22.8
5 焼肉	18.5	手巻き寿司 15.4	うな重・うな丼 16.7	うな重・うな丼	刺身 18.1	ちらし寿司 17.7

小学生の頃のごちそうメニューと現在のごちそうメニューを比較すると、「にぎり寿司」や「ステーキ」は、今も昔も変わらず「ごちそう」ですが、「すき焼き」「おせち料理」「赤飯」「刺身」などは大人になるとランクダウン。特に「すき焼き」は、大きくランクをさげています。代わって登場している「ごちそう」は、「ふぐ」「まつたけ」や「フカヒレ」など、季節限定の高級素材を使用した料理。大人になると、食体験の積み重ねから嗜好の幅が広がり、求める味も変化するようです。

	小学生の頃 N=357	現在 N=357
1 すき焼き	38.9	にぎり寿司 37.5
2 にぎり寿司	37.3	ステーキ 30.0
3 ステーキ	25.8	ふぐ料理 28.0
4 おせち料理	23.2	まつたけ料理 26.6
5 焼肉	18.5	フカヒレ料理 23.2
6 赤飯	16.5	うな重・うな丼 17.4
7 刺身	12.0	焼肉 13.7
8 うな重・うな丼	11.8	しゃぶしゃぶ 12.9
9 ちらし寿司	9.8	すき焼き 12.3
10 天ぷら	9.5	おせち料理 11.2

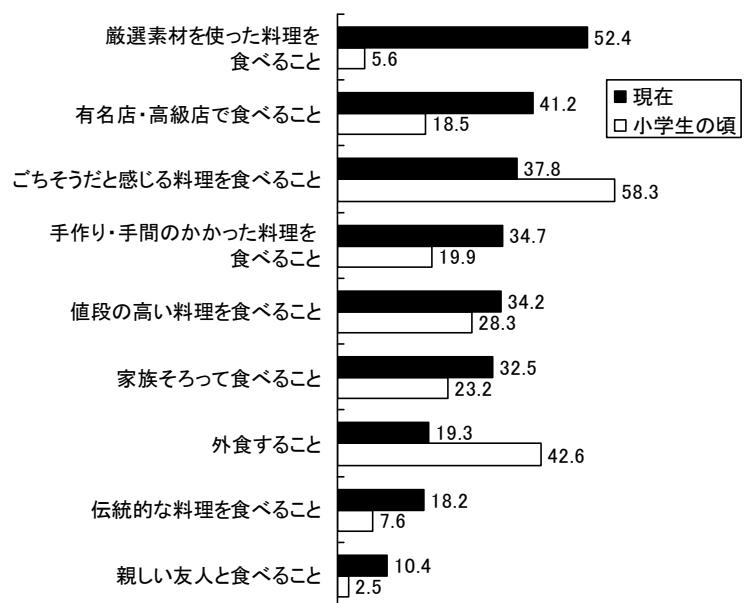
※選択肢: 赤飯、おせち料理、うな重・うな丼、にぎり寿司、ちらし寿司、手巻き寿司、お好み焼き、お子さまランチ、カレーライス、オムライス、スパゲッティ、ラーメン、焼肉、天ぷら、刺身、ふぐ料理、まつたけ料理、とんかつ、ステーキ、ビーフシチュー、ローストビーフ、グラタン、ハンバーグ、から揚げ、エビフライ、フォアグラ料理、北京ダック、フカヒレ料理、すき焼き、しゃぶしゃぶ+その他(具体的に記入)+特になし

### ●多様化する「ごちそう」の定義。「家族だんらん」が見直される傾向に

ごちそうの定義も変化しているようです。小学生時代は、単に「ごちそうだと感じる料理を食べること」「外食をすること」が「ごちそう」の条件でしたが、現在では「厳選素材を使った料理」や「有名店・高級店での食事」にシフト。食に対する価値観が多様化した今日、「ごちそう」の定義も多様化していることが分かります。

また、「厳選素材」「有名店・高級店」のほかには、「家族そろって食べること」「手作りの料理・手間のかかった料理を食べること」もポイントを伸ばしており、3 人にひとりが現在の「ごちそう」の条件としてあげています。大人も子どもも忙しいこの時代に、家族がそろった食卓の大切さが再認識されつつあるのでしょうか。

■「ごちそう」の定義 いま昔 N=357 (%) (MA/9項目+その他)



## ☆情報あ・ら・か・る・と☆

### ～「私の思い出の味」 泉麻人氏 インタビューより～

#### ◆思い出の味は、“茶の間”の景色とともに

##### 【少年時代の“思い出の食事”】

4畳半の茶の間に掘りごたつがあって、テレビが正面に見える席におばあちゃんが、その両脇に父と、父の末弟が座り、僕と弟はテレビを背に並んでいる。母親とお手伝いさんの「ちよくん」(女性だが男勝りだったので「くん」と呼んでいた)は、隣の台所で炊事をしている。「思い出の食事は？」と聞かれると、料理よりも先に、茶の間の景色が浮かんできます。いわゆる“だんらん”の風景ですね。そのとき食べていたもので思い出すのは、「天ぷら」かな。ニンジンの千切り、サツマイモ、春菊、そして僕が好きだった豚肉……。「次に何が揚がってくるか」を、僕と弟が台所まで“偵察”に行くんです(笑)。あと、よくやったのは「水炊き」ですね。冬なんかだと、僕らはこたつに潜り込み、背泳みみたいな格好でテレビを見るんですが、テレビに熱中しすぎると、大人にいい肉を取られてしまう。だから、いつも焦って鍋をつついて(笑)。そんな僕らの後ろでテレビが鳴り、大人たちが笑っている。そういった光景が、我が家の日常でした。

ただ、時代によっても違うでしょうね。僕が子どもの頃にはそういう家族体系があったから、茶の間のだんらんが郷愁になっているけれど、僕にとっての茶の間が、ファミレスだという世代が現れるかもしれない。でも、それはそれでいいんじゃないかな。僕の場合は、みんなでテレビにツッコミを入れながら食事をしているみたいな光景が、“だんらん”の温かみとして印象に残っていますけどね。

##### 【“ごちそう”って何だろう？】

子どもの頃の“ごちそう”といえば、「すき焼き」でしたね。関西に単身赴任していたおじいちゃんが、東京に戻ってくるとき、むこうのいい牛肉をお土産にもってくる。そうすると、いつもの「豚の水炊き」が、「すき焼き」になるんです。だから、子ども心には「おじいちゃん帰る＝すき焼き」で、祖父の帰還にはいつもワクワクしたものでした。あの頃は、牛肉を使った料理というものが日本における洋食の王様であり、「すき焼き」や「ビフテキ」といえば、“ごちそう”の代名詞だった。ステーキ用の牛肉が手に入ると、親父が「今日はビフテキだぞ！」と言う。その「ビフテキ」というネーム自体がすごく豪華でしたよね。

今だと、何でしょうね？「その土地のものを、旬の時期に、控えめにいただく」ことかな。仕事でよく地方に行くんですが、北海道で食べる5月のアスパラガスとか、金沢あたりで食べるノドグロとか、うまいですね。

年齢的にも“量から質”になってきたし、時流的にもそうなんじゃないかな。かつては量を食べることが“ごちそう”だったのに対し、今ではボリュームというものがその命題から外れてきている。逆に、「おいしいものを控えめに食べたい」みたいな方にシフトしているように感じますね。もう一つは、“旬”を感じながら食べること。夏野菜が一年中出回っていたりするように、日常の食べ物から季節感が失われたから、“ごちそう”の方に季節感を求めるようになったというのはあるかもしれないですね。

##### ～泉麻人さんプロフィール～

コラムニスト、作家。1956年東京都新宿区生まれ。慶応大学商学部卒。1979年に東京ニュース通信社に入社。『週刊テレビガイド』などの編集に携わった後、1984年からフリーのコラムニストに。コラム・小説を発表するほか、「テレビ探偵団」「出没!アド街ツク天国」などのテレビ出演・司会を手がけ、若者文化、レトロカルチャーや東京風俗のオーソリティとして活躍中。  
主な著書に、『シェーの時代』(文春新書 2008)、『「お天気おじさん」への道』(講談社 2005)、『青春の東京地図』(筑摩書店 2007)など。